

2 環境学習

県民一人ひとりが環境を正しく理解し、環境に負荷をかけないライフスタイルを実現・実行することこそが環境保全にとって最も重要であるという考えのもと、環境保全の実践に結びつくものとするため、各種講座の開催など環境学習の機会の提供を行っている。平成28年度の環境学習の取組については、以下のとおりである。

2.1 彩の国環境大学

県では、平成9年度から環境科学に関する知識を持った専門的な人材を育成するため、彩の国環境大学を開講している。今年度も、環境に関する広範囲かつ専門的な知識の習得を目的として基礎課程、実践課程を開講した。

開講期間：8月27日～11月23日。各課程全10回。受講者：45人。修了者：36人。

開講式公開講座

開催日	講義名	講師名
8月27日	「PM2.5とは何か？どこからやって来るのか？ 富士山頂での観測から何が分かる？」	埼玉県環境科学国際センター 総長 畠山史郎

閉講式公開講座

開催日	講義名	講師名
11月23日	「考えてみよう。近頃変わってきた河川の景観とその歴史」	埼玉大学大学院理工学研究科 教授 浅枝 隆



開講式



閉講式公開講座

基礎課程

開催日	講義名	講師名
10月 8日	埼玉の環境 埼玉県における環境問題への取組	埼玉県環境部環境政策課 主任 伊原洋輔
10月 8日	歴史と政策から環境経済学をつかむ －歴史と実際の政策から環境経済学の基礎を習得する－	東京経済大学 准教授 野田浩二
10月15日	地球環境・埼玉の環境 埼玉県の温暖化の実態とその影響 －温暖化の生物・農業・健康への影響－	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 嶋田知英
10月15日	自然環境 「見沼たんぼ」と「浦高百年の森」における蝶相の変化	環境省 希少野生動植物種保存推進員 巢瀬 司

開催日	講義名	講師名
10月22日	化学物質 化学物質と私たちの暮らし	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 茂木 守
10月22日	廃棄物管理 持続可能な社会の構築 「ごみ」からみた江戸と現代を比較し循環型社会を考える	日本工業大学 元教授 小野雄策
10月29日	水環境 健全な水循環と里川の再生	埼玉県環境科学国際センター 主任研究員 木持 謙
10月29日	環境法学 環境と法	東京経済大学 教授 磯野弥生
11月 5日	大気環境 埼玉県の大気環境	埼玉県環境科学国際センター 副室長 松本利恵
11月 5日	環境国際協力 日本の環境国際協力	独立行政法人国際協力機構(JICA) 地球環境部環境管理グループ 環境管理第二チーム 企画役 鈴木唯之

実践課程

開催日	講義名	講師名
9月 3日	環境学習の現状と課題 環境学習の今後の取り組み	立教大学社会学部 教授 同ESD研究所 所長 阿部 治
9月10日	環境学習プログラムをデザインする 環境学習プログラムをデザインする(演習)	学びの広場 代表 小川達己
9月17日	生物多様性の保全について 生物調査方法の実践(生態園にて実地演習)	(公財)埼玉県生態系保護協会 統括主任研究員 高野 徹
9月24日	環境学習から環境まちづくりへ 学びと参加をつなげひろげるコーディネーターの役割	(NPO)エコ・コミュニケーションセンター 代表 森 良
10月 1日	事例研究① ときがわ町の身近な自然を活かした活動について	もりんど 会長 山本悦男
10月 1日	事例研究② 寄居町での実践活動をとおして考える	むさしの里山研究会 理事長 新井 裕

2.2 公開講座

彩の国環境大学修了者フォローアップ講座をはじめ、センター施設を活用した生態園体験教室、県民実験教室を開催した。

講座名	開催日	テーマ及び講師名	参加者
① 彩の国環境大学修了者フォローアップ講座 環境保全活動や環境学習活動を行う彩の国環境大学修了者の支援を行うため開催している。	1月28日(土)	講演「大気環境と植物との関わり」 埼玉県環境科学国際センター 自然環境担当 専門研究員 米倉哲志 活動事例発表 「綾瀬川学習・実習での意外な発見 各地域で取り組める環境調査」 彩の国環境大学修了生の会 篠原吉則	42人

講座名	開催日	テーマ	参加者	
② 生態園体験教室 生態園における観察会や野外活動を通して身近な環境のしくみの理解や自然と生活との共生のあり方における自然環境保護意識の向上を図るため開催している。	4月30日(土)	ネイチャーゲームで遊ぼう	67人	
	5月4日(水)	見てみよう感じてみよう 春の生態園	86人	
	7月30日(土)	昆虫の標本を作ろう	43人	
	8月6日(土)	竹で工作しよう ～うぐいす笛～	72人	
	11月14日(月)	ダンボールクラフト ASIMOを作ろう	80人	
	11月14日(月)	自然観察会 見てみよう感じてみよう 秋の生態園	65人	
	12月10日(土)	実りのリースを作ろう	56人	
	2月18日(土)	森の夢工房	65人	
	2月26日(日)	冬のバードウォッチングを楽しもう	33人	
	3月5日(日)	絶滅危惧種を守ろう ～絶滅危惧植物「サワトラノオ」の植え替え体験～	10人	
	③ 県民実験教室 簡易な科学実験やリサイクル工作を通して環境保全意識の向上を図るため開催している。	4月29日(金)	ミラクルヘリコプターを作ろう	136人
		5月3日(火)	音と遊ぼう ～エコマイクを作ろう～	112人
		5月5日(木)	サイエンスショー 爆発実験	215人
6月19日(日)		廃油からリサイクル石けんを作ってみよう	50人	
7月18日(月)		大気の性質を調べてみよう	33人	
7月24日(日)		水の性質を調べてみよう	68人	
7月26日(火)		ニボシの解剖標本を作ろう	67人	
7月28日(木)		大気汚染を目で見てみよう	51人	
8月3日(水)		サイエンスショー 化学反応!	169人	
8月4日(木)		土壌の性質を学ぼう	39人	
8月7日(日)		富士山のてっぺんの空気は何が違う?	59人	
8月11日(木)		乾電池チェッカーを作ろう	117人	
9月25日(日)		身近な物の中の化学物質を調べてみよう	24人	
10月23日(日)		音と振動のなぞを調べてみよう ～実験とものづくりで確かめる音の正体～	24人	
11月14日(月)		サイエンスショー 空気ってチカラもち!?	301人	
11月14日(月)		サイエンスショー -196℃の世界	212人	
12月11日(日)		草木染めをしてみよう	42人	
12月18日(日)		廃油からクリスマスアロマキャンドルを作ろう	45人	
1月22日(日)	楽しい実験で探る! 固体と結晶のひみつ	64人		
3月20日(月)	オイル万華鏡を作ろう	94人		

(31講座、計2,541人)

2.3 身近な環境観察局ネットワーク

環境に関心がある県内の個人や団体に、簡易な環境調査法を学習する機会を設けている。観察局数:64局(平成29年3月31日現在)。

身近な環境観察局では、年間を通じて大気・水質・酸性雨・一般指標生物・ハンノキとドリシジミの調査を行っている。

平成28年度は新規応募者研修会を3回、大気測定会を5回実施した。また、身近な環境観察局ワーキンググループ活動成果発表会を実施し、観察局間の交流を図った(2月25日(土) 参加者17人)。

2.4 研究施設公開

ゴールデンウィーク、夏休み、県民の日に研究施設の一般公開を行っている。

開催日		内容	参加者
5月5日(木)	ゴールデンウィーク	普段非公開の研究施設を見学するツアーを実施	106人
8月3日(水)	夏休み		115人
11月14日(月)	県民の日		84人

(計305人)

2.5 その他

ゴールデンウィーク、夏休み、県民の日等に各種イベントを実施した。

イベント名	開催日	内容	備考
① ゴールデンウィーク特別企画	4月29日(金) } 5月5日(木)	・オリエンテーリングクイズ ・サイエンスショー ・各種環境講座	参加者延 5,158人
② 夏休み特別企画	7月17日(日) } 8月28日(日)	・オリエンテーリングクイズ ・サイエンスショー ・研究所公開	参加者延 7,350人
③ 県民の日特別企画	11月14日(月)	・サイエンスショー ・自然観察会 ・研究所公開	参加者延 3,203人
④ 上映会	4月29日(金) } 3月26日(日)	・プラネット・ダイナソー「失われた世界」 ・プラネット・ダイナソー「空飛ぶ恐竜たち」 ・動物の赤ちゃん ワクワク編 他	参加者延 2,490人

(計18,201人)